

第2 疏水トンネル試作物

第1疏水は1890(明治23)年に完成しましたが、明治30年代に入ると電力需要等の増大への対応や、地下水に頼っていた飲料水の不足が問題となり、第1疏水の北側に第2疏水が1912(明治45)年に造られました。第2疏水は主として水道水源に用いるため、水が濁るのを防止する目的で、埋立てトンネルとしました。

このアーチ状のコンクリート構造物は、疏水の建設や維持管理に従事していた作業員が建設技術を習得するため、第2疏水の埋立てトンネル上部の複製を製作したものだといわれています。第2疏水は地上からはほとんど見えませんが、蹴上の第1疏水との合流点(写真)で見ることができます。



【蹴上にある第1・第2疏水の合流点 左側が第2疏水の出口】

この案内板は、区民参加により作成した冊子『京都山科東西南北 ～区民が選んだ魅力を訪ねて～』に掲載した魅力を紹介するものです。

その他の魅力については、山科区役所のホームページ <http://www.city.kyoto.lg.jp/yamasina/index.html> から『京都山科東西南北』をご覧ください。

山科魅力展開プロジェクト
山科区役所区民部まちづくり推進課
平成23年3月